

稚仔の出現状況の変化はないものと予測される。

④底生動物

底生動物については、工事に伴い海域へ負荷される濁りが著しい場合、ろ過食性の貝類の摂餌行動に影響を及ぼすことが考えられる。また、赤土等の海底への堆積が多い場合には、底生動物の生息状況が変化することも考えられる。

しかし、海域へ負荷される処理水の影響は轟川河口に限られ、SSの寄与濃度の程度も極めて小さく、さらに、工事に伴う赤土等の堆積による影響の程度は極めて小さいと予測されることから、底生動物の出現状況の変化はないものと予測される。

⑤魚類

魚類については、工事に伴い海域へ負荷される濁りが著しい場合、濁り粒子がえら粘膜に付着して、呼吸機能に影響を与えることや、その場からの逃避行動を起こすことが考えられる。

しかし、海域へ負荷される処理水の影響は轟川河口に限られ、SSの寄与濃度の程度も極めて小さいことから、魚類のえら粘膜への付着や逃避行動に変化はないものと予測される。

⑥潮間帯生物

潮間帯植物は、水中の栄養塩類を吸収して光合成を行うことにより生長するが、工事に伴い海域へ負荷される濁りが著しい場合、海水への光の透過率が低下するため、光合成活性が低下し、潮間帯植物に影響を与えることが考えられる。また、潮間帯動物は、ろ過食性の動物が多く、工事に伴い海域へ負荷される濁りが著しい場合、その摂餌行動に影響が及ぶことが考えられるほか、濁り粒子は潮間帯動物の着生基質や潮間帯動物自身にも堆積し、呼吸機能に影響が及ぶことも考えられる。

しかし、海域へ負荷される処理水の影響は轟川河口に限られ、SSの寄与濃度の程度も極めて小さく、さらに、工事に伴う赤土等の堆積による影響の程度は極めて小さいと予測され、潮間帯植物の生息環境に変化がなく、潮間帯動物の付着基盤にも改変がないものと予測されることから、潮間帯生物の出現状況の変化はないものと予測される。

⑦サンゴ類

サンゴ類は、サンゴと共生する褐虫藻が光合成で生産する有機物を利用して成長している。褐虫藻は水中の栄養塩類を吸収して光合成を行っており、工事に伴い海域へ負荷される濁りが著しい場合、海水への光の透過率が低下するため、光合成活性が低下し、サンゴへの有機物供給が低下することが考えられる。また、濁り粒子はサンゴ類の着生基質やサンゴ類自身にも堆積することから、呼吸機能に影響が及ぶことも考えられる。